

平成 29 年 3 月 17 日
愛 媛 銀 行
愛 媛 大 学

愛媛大学社会共創学部 「グローバル共創人材育成（愛媛銀行）寄附講座」を設置

このたび、愛媛大学では、社会共創学部には株式会社愛媛銀行からの寄附金により、「グローバル共創人材育成（愛媛銀行）寄附講座」を平成 29 年 4 月 1 日に設置することとなりました。

この寄附講座は、グローバル共創のあり方について教育・研究し、地域活性化に資することを目的とするものです。

本講座設置により、教育面においては、産業マネジメント、産業イノベーション、環境デザイン、地域資源マネジメントの 4 つの領域で地域の課題解決に立脚し、グローバル共創人材の育成を強化します。また、研究面においては、ステークホルダーと大学との新たな関係性を構築し、教育・研究を推進することにより、地域活性化のためのイノベーション創出を目指します。

つきましては、是非取材くださいますようお願いいたします。

記

名 称：グローバル共創人材育成（愛媛銀行）寄附講座
期 間：平成 29 年度から平成 31 年度までの 3 年間

※詳細については別紙をご参照ください。

※送付資料 5 枚(本紙を含む)

本件に関する問い合わせ先
社会共創学部 事務課
田鍋 克仁
TEL：089-927-8927
Mail:crisoumu@stu.ehime-u.ac.jp

愛媛大学 社会共創学部

「グローバル共創人材育成（愛媛銀行）寄附講座」

1 寄附者

株式会社 愛媛銀行 頭取 本田 元広

2 寄附講座設置の目的

グローバル共創のあり方について教育・研究すること

3 寄附講座の名称

グローバル共創人材育成（愛媛銀行）寄附講座

4 寄附予定額

総額		22,500,000 円
内訳	平成29年度	7,500,000 円
	平成30年度	7,500,000 円
	平成31年度	7,500,000 円

5 寄附講座の期間

平成29年度から平成31年度までの3年間

6 寄附金の使途

寄附講座の運営に必要な一切の経費（教員の給与、研究費、研究設備等）

7 配置する教員（2名 平成29年4月1日）

寄附講座教員

淡野 寧彦（たんの やすひこ） 佐藤 洋介（さとう ようすけ）

淡野教員は、現在、社会共創学部地域資源マネジメント学科の准教授でフィールドワーク・インターンシップ支援室員を務めており、寄附講座の設置に伴い、寄附講座の准教授（兼任）として就任する予定です。

佐藤教員は、株式会社愛媛銀行を定年退職後、現在、嘱託として愛媛銀行に務めており、寄附講座の設置に伴い、非常勤の教員として就任する予定です。

8 寄附講座の運営

寄附講座は「グローバル共創のあり方について教育・研究すること」を設置の目的としており、社会共創学部全体で運営することとし、寄附講座における教育研究は社会共創学部の教育研究として社会共創学部の全教員が関与する体制とします。

9 寄附講座の教育研究

(1) 教育

社会共創学部は、様々な地域社会の持続的な発展のために、文系・理系の専門知識を融合させる学際的な思考力を有し、地域の多様なステークホルダーと協働しながら、課題解決策を企画・立案することができ、サーバントリーダーシップを発揮して地域社会を価値創造へと導く「社会共創力」を備えた人材を育成することを目的としています。

グローバル化・情報化社会が進むなか、ヒトやモノの移動を加速し、多様な文化・ビジネス・科学技術の交流と共存が可能となり、新たな社会を共創することが求められています。一つの地域が地理的に制約を超えて、世界とつながりながら共通課題を解決することが重要であり、多様な社会を包容できるグローバル教育が必要です。

社会共創学部は産業マネジメント、産業イノベーション、環境デザイン、地域資源マネジメントの4つの領域で地域の課題解決に立脚し、グローバル共創人材の育成を強化します。

グローバル共創人材を育成するためには、より実践的な学習と参加体験が必要です。正課としての理論学習と、準正課として実践体得が互いに補完し合うことにより、海外の異文化を多角的に包容し、グローバル的なステークホルダーと協働しながら、自らの問題として関わっていきます。

本講座は、準正課教育として、実践コミュニケーションスキル講座や異文化交流活動等を展開します。実践的グローバル教育をコーディネートし、公開講座・講演を開催することで、グローバル教育を多面的、実践的に強化します。また、海外フィールドワーク・インターンシップ、海外研修、学生自主活動への支援も大いに期待できます。

このような一連の教育活動を段階的、一体的に展開することで、「グローバル共創人材」の育成を確実に達成します。

(2) 研究

社会共創学部は、地域に特化した学部ですが、地域という場合には必ずしも愛媛県に特化した地域に限定してはおりません。地域間連携に基づく地域活性化はもとより、海外の地域との連携協力による地域間連携活性化も想定されています。そのため、社会共創学部には、日本における地域と海外の地域ステークホルダーとの連携によるグローバル共創人材の育成が重要なミッションの一つになります。

本講座は、教育と研究そして社会貢献が一体となった社会共創学部におけるグローバル共創人材を育成することを目的としています。そのため、提供された人材や資金を十分に活用することで、海外でのフィールドワーク等を通して海外ステークホルダーと協働する中で、トランスディシプリナリー（transdisciplinary）研究を推進していかねばなりません。共創行為には、どのように海外のステークホルダーと協働していくべきかが重要な要素となるからです。そうした研究の成果が教育に即座に反映され、その成果に基づき各種教育プログラムを策定・実施することで、海を越えた海外で活躍する人材、愛媛という地域と海外の地域とを股にかける人材、あるいは愛媛という地域に居ながら海外に様々な情報発信等ができる人材を育成することにつながると期待されます。

そのためには、寄付資源を活用しながら、学生を様々な問題を抱えた海外の地域に送るだけでなく、新たな海外のフィールドワーク先等を開拓する必要があります。そして、開拓された海外フィールドワーク先におけるステークホルダーを選定し、当該問題が発生したとされる現状を把握し、問題を引き起こしたとされる原因を究明し、当該問題を解決する糸口となる課題を設定し、解決策を立案し、解決策実施プランを策定し、実施プランを実行し、そして必要に応じて計画を見直すことが重要であります。こうした中で、どのようにグローバル社会を海外ステークホルダーと共に創り上げるか、すなわちグローバル共創の在り方を究明することが最も重要な研究課題となります。

しかし一方で、本講座は、グローバル化がいっそう進展している社会において、海外地域の課題を解決する思考力や、海外地域においてサーバントリーダーシップを修得・発揮でき、グローバル社会を牽引できる人材像を目指せる教育、そしてその教育を推進するためにグローバル共創人材を育成するための教育をどう行うべきか、「グローバル共創人材」育成の研究でもあります。すなわち、トランスディシプリナリー教育の在り方を究明するプログラムでもあります。

寄附講座は、ステークホルダーと大学との新たな関係性を構築し、教育・研究を推進することにより、地域活性化のためのイノベーション創出を目指します。

また、本講座で目指す教育・研究は、社会共創学部および愛媛大学において重要であるのみならず、今後、国立大学の国際化の新たな形として重要な成果をもたらすものと期待されます。

10 成果の公表

寄附講座の期間終了後は、寄附講座における教育研究の成果の概要を取りまとめて公表する予定です。